

令和５年度 建築士定期講習テキスト 訂正表

1. 標記テキストにおいて、記載内容に誤りがありましたので、下記のとおり訂正します。

頁	誤	正
v-1 20 行	～「業務その他」部門と「家庭」部門において各々 <u>66%</u> 削減と <u>51%</u> 削減の～	～「業務その他」部門と「家庭」部門において各々 <u>51%</u> 削減と <u>66%</u> 削減の～
v-37 14 行	①建築確認・検査が <u>不要</u> となる範囲	①建築確認・検査が <u>省略の対象</u> となる範囲
v-37 18 行	②建築確認・検査の審査省略の対象となる範囲	② <u>構造等の安全性審査が</u> 省略の対象となる範囲
v-42 表 5 左から 2 列目 (3 か所)	下 <u>且</u> 板張り	下 <u>見</u> 板張
v-44 表 7 「床」の欄 左から 5 列目	<u>天井</u> さお縁	<u>さお縁天井</u>
v-50 21 行	～、 <u>国を挙げて</u> のクロスラミナティンバー～	～、 <u>国産材の利用が見込める</u> クロスラミナティンバー～
v-51 33 行	また一方、 <u>ここ</u> 10 年の間に、～	また一方、 <u>法律制定から</u> 10 年の間に、～
v-59 37 行	～（壁倍率で約 15 倍相当）～	～（壁倍率で約 15 倍相当 <u>以上</u> ）～
v-65 30 行	～を採用している	～を採用している。 <u>。</u>
v-65 39 行	木造部分を、～	<u>構造的には、</u> 木造部分を、～
v-67 4 行	～求めた変形の 3 倍程度になる。	～求めた変形の 3 倍程度になる <u>といわれている。</u>
v-82 図 12	<u>Acction</u>	<u>Action</u>

2. 標記テキストのv-41頁「表4 想定荷重例」において、記載内容に誤りがありましたので、訂正したものを示します。

表4 想定荷重例

		部位の 面積当 たりの 荷重 (N/m ²)	床面積 当りの 荷重 (N/m ²)	仕様の構成	荷重の出典など
屋根 ※ ₁	瓦屋根 (ふき土無)	990	1300	瓦ぶき(640)＋小屋組(200) ＋打上げ天井(150)	瓦ぶき、天井：令第84条 小屋組：耐震診断法の参考資料※ ₄
	スレート 屋根	740	1000	スレートぶき(440)＋小屋組 (200)＋さお縁天井(100)	スレートぶき、天井：令第84条 小屋組：耐震診断法の参考資料※ ₄
	金属板ぶき	500	650	鉄板かわら棒ぶき(200)＋小 屋組(200)＋さお縁天井(100)	耐震診断法の参考資料※ ₄ さお縁天井：令第84条
外壁 ※ ₂	土塗り壁等	1000	1160	土塗り壁(上塗りとも、厚 6.5mm)(850)＋軸組(150)	土塗り壁：耐震診断法の参考資料※ ₄ 軸組：令第84条
	モルタル等	890	1040	モルタル壁(640)＋軸組(150) ＋せっこうボード(100)	モルタル壁、軸組：令第84条 せっこうボード：耐震診断法の参考資料※ ₄
	サイディング	600	700	サイディング(350)＋軸組 (150)＋せっこうボード(100)	サイディング：耐震診断法の参考資料※ ₄ 軸組：令第84条 せっこうボード：耐震診断法の参考資料※ ₄
	金属板張	500	580	金属板張(250)＋軸組(150) ＋せっこうボード(100)	軸組：令第84条 せっこうボード：耐震診断法の参考資料※ ₄
	下見板張	350	410	下見板張り(100)＋軸組(150) ＋せっこうボード(100)	下見板張り＋軸組：令第84条 せっこうボード：耐震診断法の参考資料※ ₄
※ ₃ 内壁	せっこう ボード	—	200	階高を変更する場合には、200 ×階高/2.8として算出する	※ ₄ より床面積あたりの荷重を引用
太陽光 発電※ ₁		200	260	屋根全面設置を想定	国土交通省によるヒアリング調査等 より想定
断熱 材	天井 断熱材	100	100	(GW24K 400mm程度)※ ₆	国土交通省によるZEH150棟調査より 想定
	壁 断熱材	70	90※ _{2,5}	(GW24K 170mm(40)＋胴縁 (30)程度)※ ₆	国土交通省によるZEH150棟調査より 想定
開口 部	トリプル ガラス	400	50※ _{2,5}	トリプルガラス(250)＋ サッシ枠(150)	開口率(外壁に対する開口の比率)9% 程度 国土交通省によるZEH150棟調査より 想定
床		610	610	さお縁天井(100)＋畳敷(340) ＋床ばり(170)	令第84条
積載		600	600	—	令第85条

※₁：軒の出450mm～600mm、屋根勾配5寸想定(×1.3)

※₂：開口率9%、壁高2.8m、外周6m×16.5m想定

※₃：内壁存在割合70%、内壁開口率：60%

※₄：木造住宅の耐震診断と補強方法(日本建築防災協会)

※₅：開口率は開口部面積／外壁面積

※₆：荷重から想定される仕様の例